

投資事業評価調書（継続）

部課室名	農地防災室	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	農地防災室長 川口靖敬 (大田恵司)	内線	4005 (4018)
------	-------	---------------------	--------------------------	----	----------------

事業種目	防災ダム	事業名	事業区間	総事業費	約27億円
		防災ダム事業 (防災ため池工事)	柿ノ木谷池地区	内用地補償費	1.80億円
所在地			事業採択年度	着工年度	完成予定年度
三原郡西淡町湊里			H6	H6	H18
事業の目的			事業内容		
<p>本事業は老朽化の著しい柿ノ木谷池の改修に併せて、降雨を一時的にため池に貯水するよう洪水調節機能を付加し、下流農地・農業用施設、公共施設及び人家等を災害から未然に防止することを目的とする。</p>			<p>防災ため池 1箇所 (総貯水量386千³m、防災容量183千³m、堤長117m、堤体積19千³m)</p> <p>[残事業量 堤体工1式、付替道路776m]</p> <p>負担割合 (国：50%、県：39%、町：11%)</p>		
進捗状況	<p>平成6年度に着手したが地質調査の結果、基礎地盤状況が悪く、位置・タイプの変更などに日時を要した。また、貯水池及び堤体隣接付近2.8haの用地交渉、事務処理が難航した。そのため事業工期が7年延伸した。</p> <p>平成13年度末までに問題を解決させ用地買収・補償を行い、平成14年12月19日に本体工事に着手した。</p> <p>現在堤体基礎掘削を実施中であり、平成16年度末までにコンクリート打設を完了し、平成18年度に事業完了の予定である。</p>				
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性	柿ノ木谷池は、堤体が老朽化し警戒ため池に指定されている。一方、下流柿ノ木谷川周辺は集中豪雨等による洪水時の河川氾濫・湛水により長年にわたり洪水被害が発生している地域であり、この被害の除去は地域の悲願であり、早期事業完了により早期効果発現の必要がある。				
(2)有効性・効率性	費用便益比B/C = 1.12であり、事業としての効果が期待できる。				
(3)環境適合性	柿ノ木谷池に棲息しているカスミサンショウウオ、ニホンアカガエルの卵を一時的に工事に影響しない場所に避難させるとともに上流域に湿地の確保を行い生物の棲息環境の保全につとめる。				
(4)優先性	洪水調節機能を持ったため池改修で、本体工事も既に着工済みで、工事着工後の進捗は順調であり、計画通り平成18年度完成に向け、引続き事業を実施し、早期効果発現を図る必要がある。				
再評価の結果	継続妥当	左の理由	上記理由により、事業継続が妥当である。		